参考となる成果整理表

施設夏秋キュウリの隔離床養液栽培に適した培地

福島県農業総合センター　作物園芸部　野菜科

1　部門名

野菜－キュウリ－作型・栽培型

2　担当者名

笠井友美

3　要旨

近年、施設キュウリでは、土壌伝染性病害虫の被害が報告されており、対策が求められている。隔離床養液栽培は、根が土壌に接しないため土壌伝染性病害虫の影響を受けにくいが、本県の主要作型である夏秋キュウリにおける栽培技術は確立されていない。本研究では、施設夏秋キュウリの隔離床養液栽培において、市販されている３種類の培地を使用することで、慣行の土耕栽培と同等の収量を確保できることを明らかにした。

（１）ヤシガラポット、ヤシガラマット、ロックウールマットは、いずれも施設夏秋キュウリの隔離床養液栽培に適した培地である（図１）。

（２）これらの培地を用いて施設夏秋キュウリの隔離床養液栽培を行った場合でも、土耕栽培と同等の収量を確保できる（図２）。

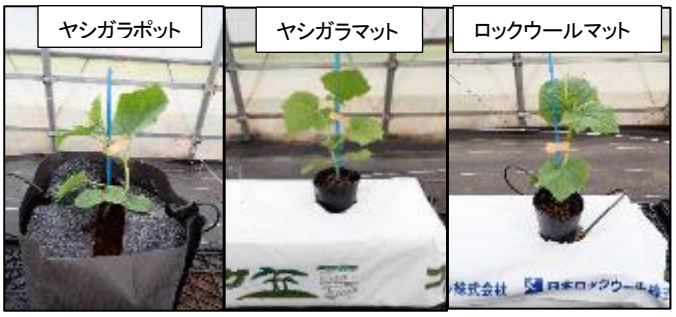

図１　定植時の隔離床養液栽培の様子

※ヤシガラマット、ロックウールマットは底なしの育苗ポットを培地上に仮支柱等で固定し、定植とした。
※3 種類の培地は全て使用初年目。

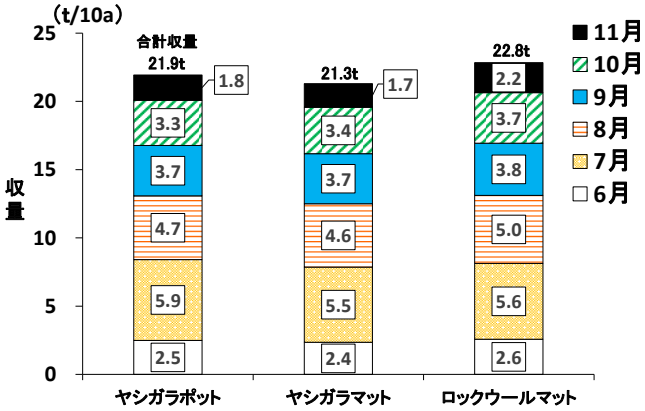

図２　培地の違いが収量に及ぼす影響

※株間 60cm、摘心アーチ栽培にて栽培した。
※定植日は 2021 年 5 月 13 日、収穫期間は 2021 年 6 月 11 日～11 月 18 日
※収量は栽植密度 1200 株/10a、可販果の A、B 品を 1 果 100g として算出した。

4　成果を得た課題名

（１）研究期間　令和３年度

（２）研究課題名　安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化〔全国農業協同組合連合会委託事業〕

5　主な参考文献・資料

（１）高収益が期待されるキュウリの少量培地栽培法，平成 30 年度，普及に移しうる成果